

# 岡山県金融経済動向

## 1. 概況

県内景気は、回復を続けている。

すなわち、最終需要面をみると、設備投資は堅調に推移している。輸出も海外経済の拡大を背景に増加している。また、個人消費は底堅く推移している。一方、住宅投資は足もと減少しているほか、公共投資は基調としては低調に推移している。

県内主要製造業の生産活動は、内外需要が堅調に推移する中、緩やかな増加傾向にある。

雇用・所得環境をみると、労働需給が改善を続ける中で、雇用者所得は概ね横ばい圏内にある。

## 2. 実体経済

### (1) 個人消費

個人消費をみると、底堅く推移している。

すなわち、9月の販売動向をみると、百貨店売上高は、残暑の影響から衣料品が秋物を中心に不振であったほか、食料品や身の回り品も低調であったため、3か月連続して前年を下回った。スーパー売上高も、食料品は底堅く推移したものの、残暑の影響から衣料品や生活用品が苦戦したため、前年割れとなった。また、乗用車販売では、普通車は新型車投入により持ち直しているものの、小型車と軽自動車の販売が引続き低調なため、全体では10か月連続で前年を下回った。このほか、旅行取扱高は、国内旅行は団体を中心に堅調に推移したものの、海外旅行が不振であったため、2か月連続で前年を下回った。

一方、家電販売は、パソコンが苦戦したものの、大型・薄型テレビが買い替え需要を中心に堅調であったほか、残暑の影響でエアコンが好調に推移したため、2か月連続で前年を上回った。

また、主要観光地への入り込みをみると、県外観光客が増えていることもあって、多くの施設で前年を上回った。

## ( 2 ) 設備投資

県内企業の設備投資は、堅調に推移している。

すなわち、19年度の設備投資計画(9月短観調査)をみると、非製造業では小売、建設、サービスなどを中心に小幅の減少計画にある(前年比 1.9%)が、製造業では、化学(能力増強、競争力強化)、石油・石炭製品、輸送用機械(能力増強)、電気機械(新製品対応など)を中心に増加計画となっている(同+15.0%)。この結果、全産業ベースでも増加計画となっている(同+8.9%)。

月次の指標をみると、建設投資の先行指標である着工建築物床面積(非居住用)は、足もとでは前年を下回っている(前年比:19/4~6月+18.7% 7~8月 57.2%)<sup>1</sup>。

## ( 3 ) 住宅投資

県内住宅投資を新設住宅着工戸数でみると、改正建築基準法施行の影響などから、持家、貸家、マンションのいずれも足もとでは減少している(前年比:7月 36.4% 8月 60.1%)。

## ( 4 ) 公共投資

公共投資は、基調としては低調に推移している。発注の動きを示す、県内公共工事保証請負額をみると、9月は、「国」、「独立行政法人等」、「その他の公共的団体」が大型工事の発注などから前年を上回ったものの、「県」、「市町村」が前年を大幅に下回ったため、全体では3か月振りに前年を下回った(前年比:8月+7.7% 9月 13.1%)。

## ( 5 ) 輸 出

輸出は海外経済の拡大を背景に増加している。

すなわち、9月の県内輸出(通関実績)をみると、西欧、中東欧・ロシア向けが自動車(完成車)を中心に高い伸びを続けているほか、アジア向けも鉄鋼を中心に堅調に推移している(前年比:8月+32.5% 9月+4.4%)。

## ( 6 ) 生産・出荷・在庫

8月の県内鉱工業生産指数(直近計数)の前年比は、化学、繊維で低下したものの、鉄鋼、輸送用機械を中心に上昇したことから、全体では4か月振

---

<sup>1</sup> 着工建築物床面積のこうした振れは、改正建築基準法による後ずれも影響しているものと考えられる。

りの上昇となった（前年比：7月 1.4% 8月 +1.1%）。

季調済前月比では、輸送用機械、電気機械を中心に上昇し、全体では2か月連続の上昇となった（季調済前月比：7月 +1.9% 8月 +4.7%）。

この間、在庫指数は、輸送用機械、繊維を中心に、3か月連続で前年を下回った（前年比：7月 6.5% 8月 4.5%）。

県内主要製造業の最近の生産動向（10業種、付表参照）をみると、造船、工作機械では、豊富な受注残を背景に高操業を継続している。自動車でも、輸出向けを中心に高操業を続けている。また、鉄鋼、石油化学は、堅調な内外需要を背景に、高めの生産を続けている。このほか、電気機械でも、液晶関連、携帯電話向け部品の受注が好調なため、高めの生産を続けており、耐火物では、大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。この間、農機具では、末端需要の低迷などから全体としては低調な生産を続けているほか、繊維でも、安価輸入品との競合や海外への生産シフトなどから、全体として低水準にある。また、石油精製は、一部の先で定期修理を行っているため、生産水準が低下している。

こうした中、造船、工作機械、自動車のうち繁忙度が高い先では、残業などによる生産対応を続けている。

## （7）雇用・所得

労働需給面では、9月の有効求人倍率が、高水準を続けている（8月 1.46倍 9月 1.46倍）一方、8月の所定外労働時間は、前年を下回って推移している（前年比：7月 13.8% 8月 15.5%）。雇用面をみると、8月の常用労働者数は、8か月振りに前年比プラスに転じた（前年比：7月 0.5% 8月 +0.7%）。この間、9月の解雇者数は、やや高めの水準となっており、雇用保険受給者数も前年を若干上回っている。このように、県内の雇用関連指標は足もとでは弱めの動きもみられるが、総じてみれば改善傾向にある。

賃金をみると、8月の一人当たり現金給与総額は、前年を下回った（前年比：7月 8.3% 8月 7.0%）。

この結果、雇用者所得は、概ね横ばい圏内にある。

## （8）物 価

9月の岡山市消費者物価指数（平成17年基準、生鮮食品を除くベース）をみると、家具・家事用品、生鮮食品を除く食料、住居が前年を上回っているが、被服及び履物、交通・通信などが前年を下回っているため、全体では前年並みとなった（前年比：8月 +0.4% 9月 0.0%）。

### ( 9 ) 企業倒産

9月の県内企業倒産（東京商工リサーチ調べ、負債総額10百万円以上）をみると、倒産件数（12件＜前年10件＞）が前年を上回ったほか、負債総額（427億円＜同24億円＞）も、大型倒産の影響から前年を大幅に上回った。

## 3 . 金 融

### ( 1 ) 実質預金

9月の県内実質預金をみると、個人預金の前年比プラス幅が拡大したものの、法人預金の前年比マイナス幅が拡大したほか、公金預金の前年比プラス幅が縮小したため、実質預金全体の伸び率は縮小した（月中平残前年比：8月+2.0% 9月+1.8%）。

### ( 2 ) 貸 出

9月の県内貸出をみると、個人向けは住宅ローンを中心に前年比プラス幅が拡大したものの、企業向けが設備資金を中心に伸び悩んだほか、地公体向けも前年比プラス幅が縮小したため、貸出全体の伸び率は低下した（月中平残前年比：8月+2.2% 9月+1.9%）。

### ( 3 ) 貸出約定平均金利

9月の新規貸出約定平均金利（総合ベース）は、4か月振りに前月比低下した。また、ストック金利（同）は18か月連続で前月比上昇した。

以 上

内容についてのご照会は下記までお願いします。

〒 700-8707

岡山市丸の内1-6-1 日本銀行岡山支店 総務課

TEL 086-227-5111（代表）

FAX 086-227-6350

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/okayama/>

(付 表)

## 主 要 製 造 業 の 生 産 動 向

業 種	足 も と の 動 向
自 動 車	<p>全体としては、高操業が続いている。</p> <p><u>国内向け生産</u>は、軽自動車は、他社向け供給の効果は継続しているものの、販売台数の減少を受けて生産水準を若干引き下げているが、小型車は、新型車投入効果もあって持ち直している。一方、<u>輸出向け生産</u>は、完成車がロシア、中東向けを中心に堅調なほか、欧州向けも他社向け供給効果などから堅調に推移している。また、北米向けも新型車投入で底堅く推移している。このほか、KDも新車投入などから持ち直している。</p> <p>この間、生産ラインでは、残業、休日出勤による生産対応を続けている。</p>
造 船	<p>高操業が続いている。</p> <p>大手先の<u>造船部門</u>では、外航船を中心に豊富な受注残を抱えており、高操業を続けている。また、<u>非造船部門</u>でも、中・小型船舶向けディーゼルエンジンのほか、産業用機械の受注が堅調に推移しており、高操業を続けている。</p> <p>この間、生産現場では、残業による生産対応を続けている。</p>
石油精製	<p>定期修理等により、原油処理量および各製品の生産水準は低下している。</p> <p>この間、製品別の需要動向をみると、<u>ナフサ</u>は、石化メーカー向けが堅調に推移している。<u>ガソリン</u>は弱含んでいるが、<u>軽油</u>は内需が底堅く推移しており、輸出向け需要も好調である。また、<u>灯油</u>は、燃料転換の進捗もあって、需要が基調として弱含んでいるものの、冬の需要期に向けて積み増している。なお、<u>重油</u>は、減少傾向にある。</p>
石油化学	<p>好調な内外需要を背景に、全体として高めの生産を続けている。</p> <p>製品別にみると、<u>ポリエチレン</u>は、需要が堅調に推移しているため、高水準の生産となっている。<u>塩ビ樹脂</u>は、輸出向けを中心に、高水準の生産となっている。<u>ポリスチレン</u>は、汎用品の需要が弱含んでいるものの、より高付加価値な製品へと生産をシフトしており、高めの生産となっている。</p>
鉄 鋼	<p>粗鋼生産量は、堅調な内外需要を背景に高水準にある。</p> <p>製品別の動向をみると、<u>薄板類</u>は、高付加価値品、汎用品ともに需要が好調であり、全体としては高水準の生産を続けている。<u>厚板類</u>は、造船メーカー向けを中心に需要が堅調に推移しており、高水準の生産を続けている。<u>形鋼類</u>は、民間建設向け需要が堅調なことから、全体としては高めの生産水準となっている。<u>棒鋼類</u>は、自動車向けや、民間建設向けの需要が堅調なため、高めの生産を続けている。</p>
耐 火 物	<p>大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。</p> <p>大手メーカーでは、主力取引先である鉄鋼メーカー等からの受注が堅調に推移している。また、中小メーカーでも、安価輸入品との競合が続いているものの、需要が増加しているため、緩やかに持ち直している。</p>
電 気 機 械	<p>全体として、高めの生産を続けている。</p> <p>製品別にみると、<u>電子部品</u>は、液晶関連や携帯電話向けを中心に受注が好調に推移しており、高水準の生産を続けている。<u>スイッチ</u>も、携帯電話向けを中心に高操業を続けている。<u>デジタルビデオカメラ</u>は、新製品投入効果もあって、高操業を続けている。</p>
織 維	<p>全体としては低水準の生産が続いている。</p> <p>製品別にみると、<u>綿織物</u>、<u>合繊織物</u>は、安価輸入品との競合などから、生産量は減少している。また、<u>ジーンズ</u>、<u>作業服</u>は、海外生産シフトの影響などから、低水準の生産が続いている。<u>学生服</u>は、海外拠点への生産シフトにより低調な生産が続いている。</p>
工 作 機 械	<p>高操業が続いている。</p> <p><u>NC旋盤</u>は、自動車関連、一般機械メーカー向けを中心に、輸出向けを主体に受注が堅調に推移しており、高操業を続けている。また、<u>MC(マシニングセンター)</u>も、自動車関連、一般機械メーカー向けを中心に、高操業を続けている。</p> <p>こうした状況下、繁忙度の高い生産現場では、残業、休日出勤による生産対応が続いている。</p>
農 機 具	<p>全体としては低調な生産を続けている。</p> <p>製品別にみると、<u>携帯用刈払機</u>は、欧州向けを中心とした海外需要が堅調に推移しているが、国内需要が低調なため、足もとの生産は低調に推移している。また、<u>コンバイン</u>は、需要期に入っているものの、末端需要が低調なため、全体としては低水準の生産が続いている。</p>